

令和3年度第2回 釜石市子ども・子育て会議開催結果（概要）

1. 日 時 令和3年10月6日（火）10：00～12：05
2. 場 所 中妻地区生活応援センター 集会室
3. 出席者等 <出席委員 11人>
藤原伸哉委員、三浦綾委員、鈴木ゆりえ委員、佐々木幾子委員、柳下啓子委員、八幡恭子委員、佐々木晴美委員、伊東公一委員、大槻忍委員、福成菜穂子委員、黍原豊委員、
<市側出席者>
釜石市長 野田 武則
保健福祉部長 小笠原 勝弘
子ども課長 千葉 裕美子
子ども課 主幹兼子ども福祉係長 樋岡 悦子
次世代育成係長 菊池 喜子
次世代育成係 主事 川原 澄玲
釜石市教育委員会学校教育課 指導係 主任指導主事 和田 裕之

4. 傍聴者 0名

5. 経 過

（1）開 会

千葉課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。

（2）市長挨拶〔要旨〕

コロナ禍ということで皆さん大変厳しい生活をされていると思うが、皆様の協力のおかげで感染者数は少ない。なんとかこの状態で推移してほしいと思っている。

ワクチンの接種状況については順調に進められており、現在は12～29歳を対象に進めている。10月に入り第1回目接種は約80%に近い数字に達している。11月中には希望する方にすべて接種できると思っている。ただ、希望していない方も結構な数があるので、この方々にもご理解していただいでできるだけ早く接種していただければと思っている。

残念ながら釜石もどんどん少子化が続いており、人口もどんどん減少しているところで、なんとかこれに歯止めをかけていきたいと思っている。釜石市の直接的な支援としては保育料及び副食費の無償化を実施している。そういった取り組みもすべてこの「かまいし子育て応援ガイドブック」に書いており、これを見ただけでもずいぶんいろんなことが取り組まれていると自負をするわけだが、これが直接少子化対策につながっているかということ必ずしもそうではない。また、病院の問題とか働く場、働く環境の問題も関係している。そういった面でも各方面、各視点からみなさまのご意見をいただいて、子育てしやすい環境、子どもの人権も自らの人権も守られるような街にしていきたい。

皆さんもご存知のとおり、県立釜石病院で10月から分娩ができなくなった。岩手医科大学の先生からは医師の派遣が可能になったらまた再開するから、それまで一時的に辛抱してくれとお話しされた。今のところはその言葉を信じながら、いつの日かまた再開できる日まで我々としても引

き続き要望していきたいと思っている。その間、大槌町と連携しながら支援を講じていきたい。

支援の1つは母子手帳を交付した段階で3万円を給付するというもの。2つ目はそれから病院への診察や治療を受ける際の交通費の補助。3つ目は病院の周辺に宿泊せざるを得ないとなった場合の宿泊費の補助。リスクのある方は10万円の限度、リスクのない方は5万円。里帰り出産の方々にもこれは適用する。岩手県内ではこれほどの支援をしているところはないと思う。釜石で分娩ができないための支援策ですのでこの点をご理解いただき、釜石でたくさんの赤ちゃんを産んでいただきたいと思っている。

(3) 議 事

①特定教育・保育施設の定員の変更について

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明。承認された。

②市内教育・保育施設利用児童数及び出生率の推移について

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明。承認された。

③第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画の重点プロジェクトの進捗状況について

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明。プロジェクト3については、委員から実態が分からないなどの意見があったことから、別添資料「子どもと家庭を守るプロジェクト検討事前資料」に基づき、具体的な内容を事務局から説明。前回の会議で、プロジェクト3について議論する時間がなかったことから、プロジェクト3から逆順に意見を伺った。

(4) その他

- ・次回会議日程についての説明（来年2月頃を予定）
- ・委員の任期が12月末をもって終了するが、引き続き継続してほしい。

(5) 閉 会

○主な議事での発言は以下のとおり

[議事③第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画の重点プロジェクトの進捗状況について]

(1) プロジェクト3：子どもと家庭を守るプロジェクト

藤原委員：「子ども家庭総合支援拠点」が準備段階とのことで了解した。拠点ができてからの評価ということで認識した。

三浦委員：資料に掲載されている虐待の件数に、市内でもこんなにあるのかと驚いた。子どもは遊び場があればいいが、お母さんの居場所がない。困っているお母さん方に寄り添い、相談の場所や居場所づくりがやはり重要だと感じた。

鈴木委員：今回虐待の件数を数値で示してもらってよかった。また課題もわかることができた。摂津市で熱湯をかけて男児が死亡した事件で、市長が対応に問題はなかったと発言していた。市のマニュアル的には問題はなかったのかもしれないが、実際に男児が亡くなっている。90数回面談したとも言っていたが実際こうなってしまうている。摂津市は大きい市だが虐待に対応する専門の方がいなかったようだ。

説明資料には虐待対応専門員が配置されることになっているが、今現在は子ども課に配置されているのか？

樋岡主幹：虐待対応専門員という名前ではないが、子ども福祉係の職員が2人1組で訪問にあたって

いる。

佐々木幾子委員：私も要対協の構成員として対応にあたっているが、会議の場で共有されるケースを見ると、釜石で実際にこんなことがあるのかと驚いている。保育園では気になる子がいたりすると子ども課に相談している。子どもの変化に早く気づき、関係機関へつなぐことが大事だと思っている。

柳下委員：私は主任児童委員も兼ねていて、実際に地域から虐待の疑いの相談を2件受けたことがある。その時は子ども課に連絡したら、すぐ子ども課の職員が訪問してくれた。保育園でも気になる子がいたら子ども課に相談しているが、その時もすぐ子ども課の職員は対応してくれる。本当に助かっています。やはりこのような連携が重要だと思うので、子ども家庭総合支援拠点が設置されることによって、横の連携がさらに強まっていくといいと思う。

八幡委員：釜石にも虐待がある実態がわかった。知り合いの話だが、虐待の疑いで通報されたが実際は虐待ではなかったお母さんがいる。結局は虐待ではなかったのだが、そのお母さんはそれ以降、誰が通報したのか周りの目が気になってしまったり、自分の子育てが間違っているのかと悩んで病院にかかったりしてしまったという話を聞いた。訪問してみたら虐待ではなかったケースというのがあると思うが、その場合はどのような対応をしているのか。

樋岡主幹：子ども課で訪問した場合は、虐待ではないと判断した場合でも、児童相談所とは違って関わりが1回で終わることはなく、引き続き支援を行っている。例えば、お母さんの子どもへの声が大ききだけの場合だったら「今は子どもへ大きい声で指導することも虐待と捉えられたりする場合もあるよ」とか、パンフレットを持って行って、「子どもにはこういう口調で話したりした方が子どもの成長にとってもいいんだよ」ということを伝えたりという支援の仕方をしている。

佐々木晴美委員：児童館でも子どもの様子を気にかけて見ている。気になる子があつた場合は子ども課に相談するようにしている。気になる子について、学校や子ども課へ連絡すると、すぐ対応してくれるので安心感がある。

大槻委員：これは事務局というよりは市長さんとかトップの方へのお願いになるが、こういう拠点を整備していくにはやはり人材の育成や専門職の確保が重要になってくる。予算といった面も含めてその点をしっかりやっていただくようお願いしたい。

黍原委員：虐待をしているお母さんが悪い、とかそういうことではなくて、専門機関だけではなく地域で見守って支援していかなければいけない。それこそこういう拠点を整備して連携を深めることが重要。

あと、子ども課として、この子ども家庭総合支援拠点を整備することで、地域やそれぞれの立場の方に行政としてはどのような役割を担ってほしいのか教えてほしい。

福成委員：今までこのプロジェクト3についてここまで詳細に話したことはなかったが、今日改めて制度的なことも含めてご説明いただいて本当によかった。このプロジェクトについて話し合っていくことで、拠点がこれから動き出していくんだなという気持ち。

今は、親子のコミュニケーションが不足しているように感じる。特にお母さんが大変である。これからは親の心のケアが必要。

伊東委員長：病んでいるのは、親も子も同じである。カウンセリングやケアが必要である。地域やっ

くことで、最後まで、働きかけられるようにやっていければよい。

藤原委員：虐待が起こる根本的な原因が何なのかをつきとめる必要がある。相談があっても手だてが必要ではないのか。それをみんなで共有するべきである。私たちも相談されても聞いているだけだと、この人は何もしてくれないと思われて、次は相談してもらえないかもしれない。たとえば虐待があったひとり親家庭はこういう問題を抱えている傾向にあるとか。そういった抱えている困りごとが分かることによって、市はどういった支援を考えるかということにもつながる。

(2) プロジェクト2：遊び場開拓プロジェクト

福成委員：市内に公園が約100カ所あります。それに対して整備されていないという意見があったが、公園のトイレが汚いとか市民の立場で市に要望なんてとてもできない。使う側が、地域が、あたえられた公園ではなく自分たちの公園をつくるという気持ちで清掃や整備をやっていかないといけないと思う。親御さんたちでグループを作って地域の公園の清掃をするとか。

あと鶴住居に新しく鶴住居アスレチック公園ができて、休日は遊具の取り合いになるほど大勢で賑わっているようだ。だが私は初めて行ったときどこが入り口でどこが駐車場なのかよくわからず周辺をぐるぐる回った。市にお願いしたいのは、作って終わりではなく駐車場の位置などさらに使いやすくするよう考えてほしい。

藤原委員：私は当初から常々思っていたが、こんなに公園の整備が必要なのか。保育園や幼稚園に通っている園児が多いので、平日に公園で遊ぶ親子はめったにいない。だからこそ作って終わりではなく、例えば公園プラス防災教育と絡めたイベントをやったり、海や鉄と絡めたりしないと公園を利用するリピーターにつながらないし、この先子どもが大人になったら維持管理する人がいないという問題が出てくると思う。

伊東委員長：子ども達に公園の清掃をさせるのはどうか。

黍原委員：プロジェクト3にもつながってくるが、公園のハード的な整備だけではなく、ソフト機能での視点が必要。遊びの指導員がイベント的に公園を巡回すとか。遊びを通しての気づきが必要だと思う。これはただのアイデアだが、釜石市の児童館は沿岸で唯一の児童健全育成型なのだから自由来館ができるはず。今はそのような取り組みをやっていないみたいだが、各公園に週によって巡回する地区を決めて出張自由来館日みたいにして、地区とのお子もとの関わりを増やしたり、そこでこの子は前と服が同じだとか気づくことがあるかもしれない。そういった地域とのつながり、地域での目が必要。

もう1つは子育て支援センターの活用。平田子育て支援センターは、園の併設ではないため、地域ではなく様々なところからきている。また、平田には木のおもちゃがあり、特色があることで人が沢山集まっている。遠野も本を沢山置いてある拠点の一つとなっている。地域のエリアごとにテーマがある子育て支援拠点を置くことにより、違うあり方の子育て支援拠点の機能ができるのではないか。

(3) プロジェクト1：情報発信プロジェクト

福成委員：子ども課はLINEをよく配信していて、イラストとかもかわいく発信していて、このプロジェクトは進んできていると思う。もっと登録してもらえるように小さいパンフレット

で母子手帳交付の際に登録手順を紹介するとかした方がいいと思う。

菊池係長：小さいパンフレットは作ってあるが母子手帳登録の際に配布はしていない。そういった場面での配布や、あとは保育施設に周知もしていなかったので、LINEの周知を今後力を入れてやっていきたいと思っている。

(4) 総括

釜石市長： いじめの問題対応のため、教育委員会の組織をスポーツや生涯学習をはずし学校教育だけにした。組織が変わっても人が変わらなければ駄目である。子ども家庭総合拠点の整備についても運営する人材育成が大事であると思った。

市では独居高齢者や空家が急増している。年々高齢者数が増えつつあり、現在では90歳以上が1,000名ほどいる。人口は減少しているが、高齢化率は高くなってきている。委員から、公園の管理の話があったが、市では鶴住居公園を新たに整備し、現在は鈴子広場を整備している。地域の清掃活動については、現在高齢者が主に行っているが、子どもの頃からそういった清掃活動に参加させるようにしていかなければならない時代になってきている。例えば公園のトイレ掃除を、小学校の活動にするとか。全体住民がかかわる仕組みの作り替えが必要だと思う。

また今回いただいた意見については、総合計画や予算に反映していく必要があるので、改善策や市として明るい見通しが示せるよう、引き続き政策を立案できる会議としていきたい。